

情報モラルと情報活用能力の新たなフレームワークについて ～デジタルシティズンシップの観点から～

令和5年12月12日
文部科学省ヒアリング

坂本 旬 法政大学

ユネスコスクール・レビュー・アドバイザー

ユネスコ・メディア情報リテラシープログラム日本担当者

日本デジタル・シティズンシップ教育研究会共同代表

総務省ICTリテラシー向上検討会メンバー



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNITWIN Cooperation Programme on
Media and Information Literacy and Intercultural Dialogue



United Nations Alliance of Civilizations



デジタル・シティズンシップ教育をめぐる状況

●総務省のICTリテラシー政策の動向

- 2030年頃を見据えた情報通信政策の在り方 答申(2023.6)「デジタル・シティズンシップの考え方」
- 「ICT活用のためのリテラシー向上に関するロードマップ」(2023.6)
- インターネット上の偽・誤情報、誹謗中傷に対抗するリテラシーの重要性
- メディア情報リテラシーが高いほど偽・誤情報を拡散しにくいエビデンス
- 世代セグメントごとの対策(青少年、子育て層、高齢者を優先)
- ニセ・誤情報のための啓発教材および保護者向けデジタル・シティズンシップ啓発教材の開発
- 公共図書館における実証ワークショップの実施

●世界のデジタル・シティズンシップ政策の動向

- デジタル・シティズンシップを採用している主要な国際組織(ユネスコ、ユニセフ、OECD、欧州評議会、国際教育テクノロジー学会)
- ユネスコ「グローバル教育モニタリング(GEM)レポート・教育におけるテクノロジー:誰のためのツールなのか?」(2023)
- ユネスコ「アジア太平洋のデジタル・シティズンシップ:教師のイノベーションと生徒のレジリエンスのためのコンピテンシーの構築」(2023)
- OECD「21世紀の子どもたちを教育する:デジタル時代の情緒的ウェルビーイング」(2019)《OECDによるデジタル・シティズンシップ政策》
- OECD「21世紀の読者:デジタル世界における読み書き能力の育成」(2021)
- 国連子どもの人権委員会「デジタル環境に関連する子どもの権利に関する一般意見第25号」(2021)《GIGAスクール構想の根拠》
- G7 生成AIに関する包括ガイドライン 偽情報対抗教育の推進(2023.12)

●偽情報に対抗する「横読み」

- 偽情報に対抗するためには「一歩立ち止まって考える」批判的思考が必要
- ファクトチェック(情報の真偽検証) ガイドラインに基づいて事実言明言説を特定し、証拠に基づいてレイティングを行うこと。(専門的スキルが求められるため、大学生でも難しい。)
- 「横読み(ラテラルリーディング)」ファクトチェックの技術の一部。スタンフォード大学歴史教育グループ(SHEG)が開発。ブラウザのタブを次々に開いて、元の情報の情報源や信頼性を調べること。(容易であるため、小学生でもできる。)
- 横読みは北米を中心に、世界的に普及しつつある有力な偽情報対抗教育
- NHKBS「ディープフェイクの衝撃」(2023.9.24)で紹介される(カナダの小学校の事例)

●デジタル・シティズンシップ教育

- 欧州評議会「デジタル技術を利用して社会に積極的に関与し、参加する能力」
- 法的根拠(総務省):デジタル社会形成基本法第3条「デジタル社会におけるあらゆる活動に参画し、個々の能力を創造的かつ最大限に発揮することが可能となり、もって情報通信技術の恵沢をあまねく享受できる社会が実現されることを旨として、行われなければならない。」
- ユネスコの詳細な定義「情報を効果的に見つけ、アクセスし、利用し、創造し、他のユーザーやコンテンツに、積極的、批判的、慎重かつ倫理的な態度で関わり、安全かつ責任を持ってオンラインやICT環境を航行し、自分自身の権利を認識する能力」
- 5つの領域:デジタルリテラシー、レジリエンス、参加、情緒知性、創造性と革新

偽情報に対抗する「横読み」

●情報源を意識しない子どもたち

下の写真は2015年7月に「福島原発花」というタイトルで写真共有サイトに掲載されたものです。「何もいう必要はありません。花の生育が原発の影響を受けるとようになります。」と書かれています。この写真は原発の影響を証明していると思いますか。

評価基準

マスター	強力な証拠を認めず、情報源に対して疑問を持つ
萌芽段階	強い証拠を認めないが、情報源については無考慮
初級者	強い証拠を認めるか、不正確な理由づけを考える

「マスター」レベルに達している生徒は
217人中3人(1.4%)
法政第二中学校(2020)

スタンフォード大学歴史教育グループ(SHEG, 2016) <https://purl.stanford.edu/fv751yt5934>

●縦読みから横読みへ(内容を調べても真偽はわからない)



SHEG「横読み」で虚偽と事実を見分ける方法
<https://youtu.be/dRHaG-gUT4I>

ファクトチェッカーの手法

ブラウザのタブを開いて
元情報の評価を調査

- 1.情報の背後に誰がいるのか？
- 2.エビデンスは何か？
- 3.他の情報源は何と言っているのか？

●横読みの授業は信頼性の感覚を育てる



それをするためには、信頼の感覚を用いるためのスキルが横読みなんだ

SHEG「横読み」授業の実際 <https://youtu.be/IOQLzFhMsFO>

●生成AIによるディープフェイクに有効な横読み



2023.9.24 NHKBS「ディープフェイクの衝撃～生成系AIの光と影～」 <https://www.nhk.jp/p/ts/DW2RJG47ZY/>

情報モラルとデジタル・シティズンシップ

GIGA×ESD=デジタル時代のSDGs



情報モラル(考え方と態度)

情報モラル=情報社会で適正な活動を行うための基になる**考え方と態度**

道徳「指導計画の作成と内容の取扱い」情報モラルに関する指導

「科学技術の発展と生命倫理との関係や**社会の持続可能な発展**などの現代的な課題の取扱いにも留意し、**身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度**を育てよう努める」(中学校学習指導要領:327)

デジタル・シティズンシップ(資質と能力)

5要素(ユネスコ)

1. デジタルリテラシー
2. 安全とレジリエンス
3. 社会参加
4. 尊重と共感
5. 創造性と革新力

6領域(コモンセンス)

1. メディアバランス
2. デジタル足跡とアイデンティティ
3. プライバシーとセキュリティ
4. 人間関係とコミュニケーション
5. アップスタンダー教育
6. メディアリテラシー

持続可能な社会の担い手(ESD) (8つのコンピテンシー)

- **地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付ける(ESD推進の手引)**
- 社会に開かれた教育課程
- カリキュラムマネジメント
- ホールスクールアプローチ

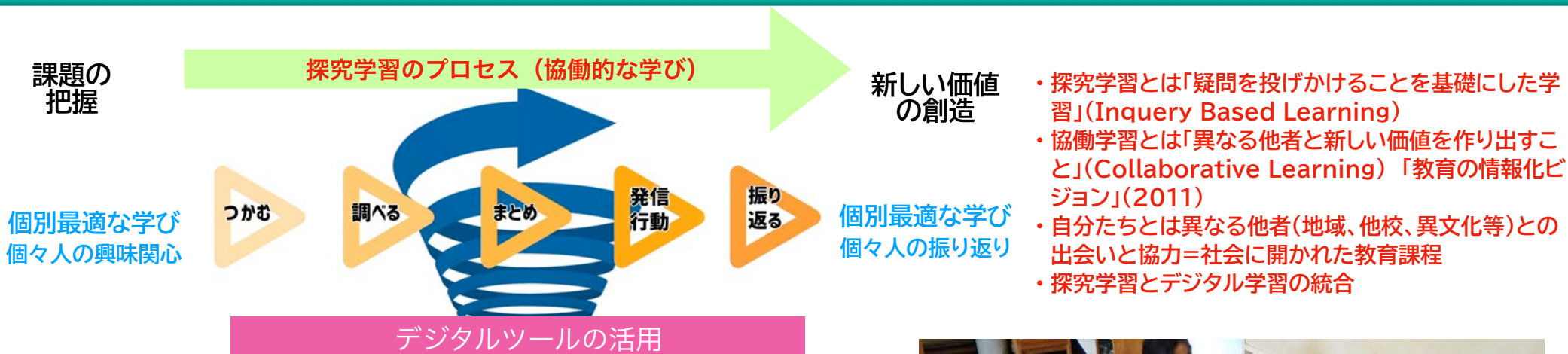
情報社会への参画
(情報モラル)

情報モラルからESDへ

デジタル社会におけるあらゆる活動に
参画(デジタル社会形成基本法)

文科省第2期ESD実施計画(2021):ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。
ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、**AI・DXの推進等**を踏まえつつ**持続可能な社会の創り手を育成**

探究学習と協働的な学び、デジタル教育の統合

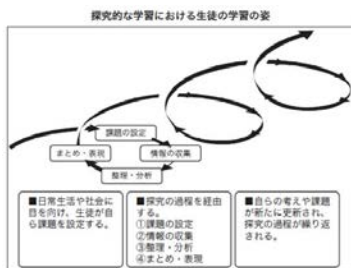


個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(2021)

- 「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元
- 「持続可能な社会の創り手となることができるよう」に育成していくことが求められています

PISA2022「実社会の問題や現象についての情報を、オンラインで見つける」「毎日またはほとんど毎日」・「週に1~2回」と答えた児童生徒は16.8%。29カ国中最下位。(平均34.9%)

日本の子どもは探究学習が苦手



文科省「教育の情報化に関する手引」より

How to Promote ESD — ESDの取り組み方—

公開年月日：2022年4月6日、2023年5月31日

各校の指導に役立ててもらうことを目的に、ESDの取り組み方について、具体例を基に解説した動画を作成しています。ユネスコ北京事務所との協力の下、全国小中学校環境教育研究会 元会長 櫻橋乾氏の標、法政大学根本旬ゼミの撮影協力を得て制作しました。

2021年度より開始した本プロジェクトでは、シリーズ化して合計5本の制作を計画しており、数年かけ順次公開していく予定です。



How to Promote ESD — ESDの取り組み方— vol.1 学び方・指導方法 探究学習のプロセスで学ぶ



How to promote ESD 「ESDの取り組み方」より

<https://www.unesco-school.mext.go.jp/information/video-collection-for-promoting-esd-how-to-promote-esd-esd-evol-vol-1-to-learn-in-the-process-of-learning-teaching-and-learning/>

情報モラル(デジタル・シティズンシップ)と情報活用能力

- ・ 道徳における情報モラルの位置付けを重視する
- ・ デジタル教育の目的は、持続可能な社会の担い手の育成(学習指導要領の理念)
- ・ 情報活用能力にデジタル・シティズンシップの要素を位置付ける
- ・ 怖がらせる教育・ダメダメ教育から励ます教育への転換(怖がらせる教育には限定的な効果しかない)

「生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(2023)

- ・ 「ファクトチェック」の重視
- ・ 批判的思考の重視

情報モラル
(デジタル・シティズンシップ)

情報モラル

持続可能な社会の発展のために、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向かう態度

情報活用能力(資質・能力=コンピテンシー)

1. デジタルリテラシー(デジタルツールの活用)
2. メディア情報リテラシー(情報の分析・評価と発信)
3. 安全とレジリエンス(デジタル社会におけるリスクへの対処)
4. 社会参加(デジタルツールを活用した社会への参画)
5. 他者の尊重と共感(アップスタンダー教育)
6. 創造性と革新力(新たな価値の創造)

学校教育法の教育目標:「健全な批判力(批判的思考力)」の育成

- ・ 情報モラル=Digital Citizenship
- ・ 情報モラルは情報活用能力の上位概念
- ・ 批判的思考力は「一歩立ち止まって考える力」
- ・ いじめ予防教育としてのアップスタンダー教育を重視
(NHKスペシャル「いじめから、逃げない 3年2組の挑戦」2023.5.6)

「学校教育法」中学高校の教育目標
「健全な批判力」
=批判的思考力の育成

GIGA×ESD～デジタル時代のユネスコスクール

ユネスコスクール全国大会 デジタル教育分科会（2024年1月20日）
—GIGA×ESD～デジタル時代のユネスコスクールを考える

1. ユネスコ「GEMレポート2023:教育におけるテクノロジー」(ACCU)
2. GIGAスクール政策の現在(文科省)
3. ユネスコのデジタル教育政策(坂本)
4. 早稲田摂陵高等学校
5. 福岡市立百道浜小学校
6. 聖ヨゼフ学園日星高等学校
7. パネルディスカッション「デジタル時代のユネスコスクールを考える」